

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 8 月 16 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (8/16 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 2.1 m <sup>3</sup> /h	38.7	106.2 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 5.0 m <sup>3</sup> /h	52.6	5.09 kPa g	A系： 0.07 vol%
		給水系：約 2.1 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.08 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 4.5 m <sup>3</sup> /h	50.9	0.22 kPa g	A系： 0.25 vol%
		給水系：約 2.6 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.24 vol%

\* 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (8/16 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	30.0
2号機	循環冷却システム	運転中	30.4
3号機	循環冷却システム	運転中	29.2
4号機	循環冷却システム	運転中	37

\* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	8/12 10:00 ~ 8/14 12:57 移送実施
	2号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	8/15 17:08 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	8/12 10:25 ~ 移送実施中

・H24/8/14 11:15 頃、4号機タービン建屋1階のパワーセンター室に水溜まりがあることを、パトロールを実施していた当社社員が発見。水溜まりの範囲は、パワーセンター室内全域および4号機タービン建屋1階廊下北側に広がっており、水の深さは約1cm程度で、建屋内に留まっており屋外への流出は無い。当該室内への水の流入は継続しており、3号機タービン建屋地下から雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)へ滞留水を移送中の配管があることから、同日 12:21、当該移送配管のポンプを停止したところ、12:58、当該室内へ水の流入の停止を確認。パワーセンター室内の溜まり水の核種分析を行った結果、セシウム 134 が約  $3.0 \times 10^4 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム 137 が約  $4.7 \times 10^4 \text{Bq/cm}^3$  であったことから、溜まり水は3号機タービン建屋の滞留水と推定。なお、パワーセンター室の溜まり水については、今後4号機タービン建屋地下へ排水予定。パワーセンター室内全域および4号機タービン建屋1階廊下北側の溜まり水の量については約 4.2m<sup>3</sup>と推定しており、漏えいの原因については引き続き調査予定。

・H24/8/15 8/8 以降、滞留水の移送について、2号機タービン建屋地下から3号機タービン建屋地下への移送配管(ポリエチレン管)を敷設し、3号機タービン建屋地下を経由する運用に変更していたが、8/14 に発生した漏えい事象を受け、変更前のラインである2号機タービン建屋地下から集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容処理建屋[高温焼却炉建屋])への移送ラインに切り替えた後、8/15 17:08、溜まり水の移送を開始。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (8/16 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

\* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H24/8/14 8:30 頃、集中環境施設南側の屋外にあるセシウム吸着塔仮保管施設\*<sup>1</sup>において、ベッセル換気用真空ポンプ\*<sup>2</sup>のモーターより白煙が発生していることを、協力企業作業員が発見。ただちに消火器による消火作業を行い、8:40、白煙が停止したことを確認。9:17、富岡消防署へ通報。14:20、消防より「火災ではない」との判断をいただく。その後、当該ポンプを使用していない別のベッセル換気用真空ポンプと交換し、8/14 14:50、起動。今後、当該ポンプのモーターから白煙が発生した原因について調査を実施予定。なお、本事象による周辺の機器への影響および発電所敷地周辺のモニタリングポストの値に変動はない。

\*1 屋外にあるセシウム吸着塔仮保管施設

セシウム吸着装置で使用したベッセルを保管する設備で、原子炉注水および滞留水の処理への影響を及ぼすものではない。

\*2 ベッセル換気用真空ポンプ

ベッセル内で水の放射線分解により発生する水素をベント弁より吸引するためのポンプ。ベッセル内で発生する水素は微量のため、当該ポンプの停止が、直ちに安全上問題となるものではない。

・H24/8/16 多核種除去設備設置工事に関するクレーン操作に従事していた協力企業作業員1名が、作業を終え企業センター厚生棟休憩所に戻り、着替えをした際、装備品一式(作業者証、累積線量計、ポケット線量計(PD))を置き休憩していたところ、他作業員から当該作業員の元へ拾得物として装備品(作業者証、累積線量計)が届けられたが、その中にPDが無いことを確認し、当社社員も含めてPDを捜索したが、現時点で発見できていない。なお、当該作業員のPDの貸し出し記録は残っており、作業中にPDを装着していることは確認している。当該作業員の被ばく線量は、同作業に従事した他の作業員の被ばく線量が約 0.02mSv (PD値)であることから同等程度と考えており、また、当該作業員は累積線量計を装着していたことから線量評価は出来るものと考えている。その他詳細については現在確認中。

以上